

平成29年10月27日

上場取引所 東 福

上場会社名 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社  
 コード番号 2579 URL <http://www.ccbji.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉松 民雄

問合せ先責任者 (役職名) 財務本部 コントローラー (氏名) 鶴池 正清 TEL 03-6896-1707  
 グループ リーダー

四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績（平成29年1月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	645,088	82.4	38,606	102.9	37,876	106.7	23,797	123.9
28年12月期第3四半期	353,710	7.3	19,025	65.3	18,320	62.2	10,627	△25.9

(注) 包括利益 29年12月期第3四半期 26,707百万円 (228.5%) 28年12月期第3四半期 8,129百万円 (△44.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	143.17	-
28年12月期第3四半期	97.37	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第3四半期	889,577	622,831	69.9
28年12月期	377,468	261,173	69.1

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 621,853百万円 28年12月期 260,758百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	-	22.00	-	24.00	46.00
29年12月期	-	22.00	-		
29年12月期（予想）				22.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

28年12月期 第2四半期末配当金の内訳 普通配当 21円00銭 記念配当 1円00銭

28年12月期 期末配当金の内訳 普通配当 23円00銭 記念配当 1円00銭

3. 平成29年12月期の連結業績予想（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	906,500	96.9	40,100	89.7	38,100	84.9	21,500	309.9	122.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有

新規 1社 （社名）コカ・コーライーストジャパン株式会社、除外 ー社 （社名）ー

（注）詳細は、〔添付資料〕8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無  
② ①以外の会計方針の変更：有  
③ 会計上の見積りの変更：有  
④ 修正再表示：無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期3Q	206,268,593株	28年12月期	111,125,714株
② 期末自己株式数	29年12月期3Q	2,012,035株	28年12月期	1,989,069株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期3Q	166,211,884株	28年12月期3Q	109,138,069株

（注）平成29年4月1日のコカ・コーライーストジャパン株式会社との経営統合に伴い、発行済株式総数が95,142,879株増加し、206,268,593株となっております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって業績予想とは大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項につきましては、〔添付資料〕3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## 目 次

頁

添付資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 連結経営成績に関する説明 .....	2
(2) 連結財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(会計方針等の変更) .....	8
(追加情報) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善が続く中、個人消費においては消費者マインドに持ち直しがみられるなど、緩やかな回復基調で推移しております。

清涼飲料業界におきましては、最需要期である夏場に関東や東北などの東日本を中心に長雨が続くなど、天候不順となったものの、清涼飲料各社が特定保健用食品や機能性表示食品等の付加価値を訴求した製品の投入に積極的に取り組んだことなどから、市場はほぼ前年同期並みで推移しております。

健康食品業界におきましては、消費者の健康意識の高まりを背景に、各社の機能性表示食品の積極的な投入や他業種からの新規参入が続いております。また、化粧品業界におきましては、消費者ニーズの多様化やインバウンド需要の取り込みが継続しており、両業界とも市場は堅調に推移しております。

このような経営環境の中、新たなビジネスチャンスを獲得し、持続的な成長を可能とすべく、コカ・コーラウエスト株式会社とコカ・コーライーストジャパン株式会社は平成29年4月1日を効力発生日として、株式交換および吸収分割を併用した経営統合を行い、同日付で「コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社（当社）」が発足いたしました。

当社は、2020年までの中期事業計画「Growth Roadmap for 2020 & beyond」を発表し、重点項目として、収益を伴う売上高の成長、統合シナジーの創出、株主価値向上を実現するオペレーションモデルと財務戦略の確立、そして人材育成への投資と地域社会への貢献を掲げました。当社はこれらの取り組みに注力することで持続的成長と経営統合によるシナジー効果を創出し、国内の清涼飲料市場のリーダーとして業界を牽引してまいります。

当第3四半期連結累計期間の経営成績の状況は、次のとおりであります。

#### <売上高>

清涼飲料事業におきましては、平成29年4月1日を効力発生日とした経営統合の影響等により、売上高は、前第3四半期連結累計期間に比べ2,935億7千6百万円増加し、6,228億3千7百万円（前年同期比89.2%増）となりました。ヘルスケア・スキンケア事業におきましては、売上高は、前第3四半期連結累計期間に比べ21億9千8百万円減少し、222億5千1百万円（同比9.0%減）となりました。これにより、セグメント合計の売上高は、前第3四半期連結累計期間に比べ2,913億7千8百万円増加し、6,450億8千8百万円（同比82.4%増）となりました。

#### <営業利益および経常利益>

清涼飲料事業におきましては、上述した経営統合の影響による売上高の増加に加え、有形固定資産の償却方法変更やコスト削減施策の実行による費用の減少などにより、営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ198億3千2百万円増加し、363億4千1百万円（同比120.1%増）となりました。ヘルスケア・スキンケア事業におきましては、上述した売上高の減少等により、営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ2億5千2百万円減少し、22億6千4百万円（同比10.0%減）となりました。これにより、セグメント合計の営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ195億8千万円増加し、386億6百万円（同比102.9%増）となりました。また、主に営業利益の増加により、経常利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ195億5千6百万円増加し、378億7千6百万円（同比106.7%増）となりました。

#### <親会社株主に帰属する四半期純利益>

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ131億7千万円増加し、237億9千7百万円（同比123.9%増）となりました。

#### (参考)

当年1月1日から経営統合したものと仮定し、前第3四半期連結累計期間の実績を同様の基準で見積もった場合の業績（プロフォーマ業績）と比較すると、次のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間では、清涼飲料事業におきまして、天候不順の影響に加え、収益性重視の活動に取り組んだことなどにより販売数量が減少し、売上高は、前第3四半期連結累計期間に比べ128億9千2百万円減少し、7,640億2千9百万円（前年同期比1.7%減）となりました。一方、清涼飲料事業における製造コスト削減や統合シナジーの創出等により営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ26億2千万円増加し、401億3千1百万円（同比7.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ25億9千9百万円増加し、243億8千9百万円（同比11.9%増）となりました。

なお、当社はホームページ（<https://www.ccbji.co.jp/ir/>）にて決算説明会資料を開示しております。また、ホームページでは、決算説明会における説明等の内容をライブおよびオンデマンドで聴取いただけますので、本決算短信と併せてご参照ください。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ5,121億8百万円増加し、8,895億7千7百万円（前連結会計年度比135.7%増）となりました。これは主に、経営統合に伴いコカ・コーライーストジャパン株式会社を連結対象としたことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ1,504億4千9百万円増加し、2,667億4千5百万円（同比129.4%増）となりました。これは主に、上述した新規連結会社の影響によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ3,616億5千8百万円増加し、6,228億3千1百万円（同比138.5%増）となりました。これは主に、経営統合に係る新株発行に伴い、その他資本剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月期通期の業績予想につきましては、平成29年6月5日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	63,849	91,849
受取手形及び売掛金	29,649	82,205
有価証券	23,112	13,000
商品及び製品	27,279	54,968
仕掛品	652	596
原材料及び貯蔵品	1,998	10,114
その他	17,333	40,624
貸倒引当金	△287	△428
流動資産合計	163,587	292,931
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	31,162	73,233
機械装置及び運搬具（純額）	22,688	66,154
販売機器（純額）	39,999	110,409
土地	62,128	151,892
建設仮勘定	5	259
その他（純額）	1,829	5,462
有形固定資産合計	157,815	407,410
無形固定資産		
のれん	22,668	78,012
契約関連無形資産	—	50,748
その他	4,889	14,981
無形固定資産合計	27,557	143,743
投資その他の資産		
投資有価証券	20,144	30,581
退職給付に係る資産	123	135
その他	8,760	15,499
貸倒引当金	△519	△724
投資その他の資産合計	28,508	45,491
固定資産合計	213,881	596,645
資産合計	377,468	889,577

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,990	44,114
1年内返済予定の長期借入金	17	2,138
未払法人税等	5,717	8,201
未払金	25,042	53,134
販売促進引当金	308	405
賞与引当金	—	3,354
役員賞与引当金	—	101
環境対策引当金	—	163
その他	8,662	20,899
流動負債合計	55,739	132,513
固定負債		
社債	50,000	66,000
長期借入金	183	12,719
退職給付に係る負債	3,505	24,932
役員退職慰労引当金	191	223
環境対策引当金	—	90
その他	6,675	30,265
固定負債合計	60,556	134,232
負債合計	116,295	266,745
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,231	15,231
資本剰余金	109,072	450,639
利益剰余金	137,404	154,088
自己株式	△4,593	△4,677
株主資本合計	257,114	615,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,092	6,051
繰延ヘッジ損益	77	560
為替換算調整勘定	△3	14
退職給付に係る調整累計額	△522	△57
その他の包括利益累計額合計	3,643	6,570
非支配株主持分	414	978
純資産合計	261,173	622,831
負債純資産合計	377,468	889,577

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)
売上高	353,710	645,088
売上原価	170,213	310,837
売上総利益	183,497	334,250
販売費及び一般管理費	164,471	295,644
営業利益	19,025	38,606
営業外収益		
受取利息	37	15
受取配当金	226	278
持分法による投資利益	39	—
不動産賃貸料	94	246
有価物売却益	84	246
その他	151	232
営業外収益合計	633	1,019
営業外費用		
支払利息	352	401
持分法による投資損失	—	37
固定資産除却損	493	757
その他	492	553
営業外費用合計	1,339	1,749
経常利益	18,320	37,876
特別利益		
固定資産売却益	744	369
投資有価証券売却益	17	16
段階取得に係る差益	—	188
特別利益合計	761	574
特別損失		
災害による損失	1,052	—
投資有価証券評価損	148	—
たな卸資産廃棄損	648	—
経営統合関連費用	—	721
特別損失合計	1,849	721
税金等調整前四半期純利益	17,232	37,730
法人税、住民税及び事業税	6,079	12,934
法人税等調整額	479	1,014
法人税等合計	6,559	13,949
四半期純利益	10,673	23,780
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	45	△16
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,627	23,797



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	10,673	23,780
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,029	1,959
繰延ヘッジ損益	—	508
為替換算調整勘定	59	18
退職給付に係る調整額	724	440
持分法適用会社に対する持分相当額	△298	△0
その他の包括利益合計	△2,543	2,926
四半期包括利益	8,129	26,707
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,083	26,724
非支配株主に係る四半期包括利益	45	△16

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年4月1日付でコカ・コーライーストジャパン株式会社との間で、当社を株式交換完全親会社、コカ・コーライーストジャパン株式会社を株式交換完全子会社とする株式交換を行いました。

これにより、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が341,562百万円増加いたしました。また、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金は450,639百万円となっております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

(連結の範囲の重要な変更)

平成29年4月1日付の株式交換によりコカ・コーライーストジャパン株式会社を完全子会社化し、同日以降、同社を連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針等の変更)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更・会計上の見積りの変更)

(減価償却方法の変更および耐用年数の変更)

従来、当社および一部の連結子会社では、有形固定資産（販売機器およびリース資産除く）の減価償却方法について、主として、定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

平成29年4月1日に実施したコカ・コーライーストジャパン株式会社との経営統合により、より強固な経営基盤が構築されるとともに、今後、両社の営業、製造分野に関するノウハウを結集することで、広い地域での最適な生産体制を構築することが可能となり、有形固定資産（販売機器およびリース資産除く）の長期安定的な使用が見込まれることから、耐用年数にわたり均等償却による費用配分を行うことが当該有形固定資産の経済的便益の消費パターンをより適切に反映することとなるため、減価償却方法を定額法に変更するものであります。

また、当社および一部の連結子会社は、減価償却方法の変更の検討を契機に使用実態の検討を行った結果、第1四半期連結会計期間より、製造の用に供している機械装置については、従来、主な耐用年数を10年としておりましたが、より実態に即した経済的使用可能予測期間に基づく7年～20年に見直し、将来にわたって変更しております。

さらに、有形固定資産の減価償却方法の変更等を契機として、第1四半期連結会計期間より耐用年数経過後の有形固定資産の残存価額を備忘価額の1円に切り下げております。

以上の変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、当第3四半期連結累計期間の営業利益は558百万円、経常利益は532百万円、税金等調整前四半期純利益は532百万円それぞれ増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等)」に記載しております。

(追加情報)

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書)

前第3四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「不動産賃貸料」および「有価物売却益」は、金額的重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた331百万円は、「不動産賃貸料」94百万円、「有価物売却益」84百万円、「その他」151百万円として組替えしております。

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	清涼飲料事業	ヘルスケア・スキンケア事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	329,261	24,449	353,710
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	329,261	24,449	353,710
セグメント利益	16,509	2,516	19,025

(注) 売上高およびセグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上高および営業利益とそれぞれ一致しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	清涼飲料事業	ヘルスケア・スキンケア事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	622,837	22,251	645,088
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	622,837	22,251	645,088
セグメント利益	36,341	2,264	38,606

（注）売上高およびセグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上高および営業利益とそれぞれ一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

平成29年4月1日付のコカ・コーライーストジャパン株式会社の完全子会社化に伴い、同日以降、同社およびその子会社2社ならびに当社の持分法適用会社であった4社を連結の範囲に含めております。その影響等により、清涼飲料事業における当第3四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、前連結会計年度末に比べ、513,741百万円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

（減価償却方法の変更および耐用年数の変更）

「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針等の変更)」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、有形固定資産（販売機器およびリース資産除く）の減価償却方法について、定額法へ変更しております。また、機械装置の主な耐用年数を7年～20年に見直し、将来にわたって変更しております。さらに、第1四半期連結会計期間より耐用年数経過後の有形固定資産の残存価額を備忘価額の1円に切り下げております。

以上の変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が「清涼飲料事業」で541百万円、「ヘルスケア・スキンケア事業」で17百万円それぞれ増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

平成29年4月1日付のコカ・コーライーストジャパン株式会社の完全子会社化に伴い、清涼飲料事業においてのれんが発生しております。

当該事象により暫定的に算定されたのれんの計上額は、当第3四半期連結累計期間において58,154百万円であります。